

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	町名由来に関する事業			事業コード	2834
所属コード	051000	課等名	環境企画課	係名	環境保全係
課長名	嵯峨 秀俊	担当者名	熊谷 正弘	内線番号	8418
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード	5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 4 款 1 項 4 目 保存建造物等管理整備事業（002-03）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 51 年度
根拠法令等 (H26)	「盛岡市環境基本条例」「盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例」			

(2) 事務事業の概要

旧町名由来の内容について市民から説明文の誤りも指摘されていることから、平成 20 年度に専門家へ依頼して見直しを行い、平成 21 年度に監修作業を行い、「城下盛岡町名由来記」の改訂したことから、年次計画で町名由来板全 27 基を更新し、老朽した旧町名由来板の改修等を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 37 年に「住居表示に関する法律」が施行され、盛岡市においても旧市街地の古い町名の多くが、新しい町名に変わったことから、市民や市議会の要望もあり昭和 52、53 年度の 2 ヶ年にわたり旧町名の保存を目的に「城下盛岡町割保存事業」を実施。専門家へ委託して調査した結果を基に、昭和 53 年度に市内 27 箇所に 50 町名分の由来等を記した説明文を「旧町名由来板」として設置したことが当事業のきっかけとなっている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

旧町名の由来は、城下地域の歴史を理解する上で重要な要素であり、市民などから注目されている。町名由来板は設置後 30 年以上経過し、市民等から説明文の誤りも指摘されていることから、平成 20 年度に専門家へ依頼して見直しを行い、平成 21 年度に、この監修作業を行い、「城下盛岡町名由来記」の改訂版（冊子）を作成したことから、年次計画で全 27 基の町名由来板のうち 18 基を更新した。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

市域の歴史的環境

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 町名由来板の管理数	基	27	27	27	27	27
B						
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

- ・城下盛岡町名由来板の維持管理
- ・城下盛岡町名由来板の修繕及び更新

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値
A 補修・更新した町名由来板の数	基	3	3	3	3	3
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

旧町名の由来は，地域の歴史を理解する上で重要であり，後世に引き継ぐべきものであることから，それを市民に周知を図る。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 町名由来板更新率	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	33	44	56	67	67
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	26年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	202	249	289	208	492
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	202	202	289	208	492
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	180	180	180	180	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	720	720	720	720	800
計	トータルコスト A+B	千円	922	922	1,009	928	1,292
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：旧町名由来板の整備・設置は市民に広く城下町盛岡を周知する方法として有効であり、地域の貴重な歴史を後世に伝えることにつながるものである。

② 市の関与の妥当性

盛岡市の歴史的環境は盛岡特有の財産であり、これを守り後世に伝えることは市の役割であるため、妥当である。

③ 対象の妥当性

城下町盛岡の由来を周知するため由来板を設置するものなので、現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

旧町名の由来は、地域の歴史を理解する上で重要な要素となっており、また今後のまちづくりの視点から、市民及び議会などにおいて注目されており、市の果たす役割は大きいため、休廃止の影響がある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

町名由来板設置後 30 年近くが経過し、市民から説明文の誤りも指摘されたため、平成 21 年度に説明文の改訂を行なったところであるが、財政上、年間 3 基の更新予定となっており、できるだけ短期間で更新を完了することが課題となっている。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

事業費については。年次計画で町名由来板 27 基を更新する予定であるが、財政上、年度毎に 3 基更新するのが限界であり、これ以上の事業費の削減はできない。

また、人件費についても業務時間数は最小限にとどめているため、これ以上の削減はできない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	歴史・文化の継承	コード	11
	小施策（推進項目）	文化財の保護と活用	コード	1

(2) 改革改善の方向性

旧町名を効果的に周知する方法を検討する。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

由来板の更新計画は、財政上、年度毎に 3 基更新するのが限界であることから、補助事業等の活用により、できるだけ短期間で更新を完了する必要がある。

由来板の老朽化が進行しており耐久性がある板への仕様を検討し、周知効果向上を図る必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

教育委員会等の事務との関わりを勘案し、統合等の可能性を検討する必要があると考える。

